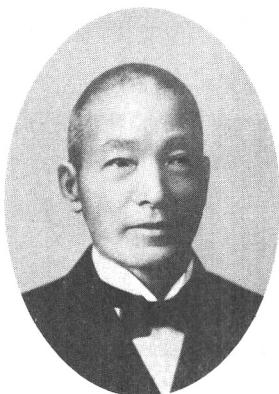


土木学会歴代会長 (大正3年～昭和59年) 敬称略



第1代（大正3～5）
故 工学博士 古市公威



第2代（大正5～6）
故 工学博士 沖野忠雄



第3代（大正6～7）
故 工学博士 野村龍太郎



第4代（大正7～8）
故 工学博士 石黒五十二



第5代（大正8）
故 工学博士 白石直治



第6代（大正8～9）
故 工学博士 廣井勇



第7代（大正9～10）
故 工学博士 仙石貢



第8代（大正10～11）
故 工学博士 原田貞介



第9代（大正11～12）
故 工学博士 古川阪次郎

(第1代～第9代)

1. ふるいち・きみたけ (1854～1934) 工博 名誉会員 獲一等 男爵 大学南校から第1回文部省留学生として明治12年エコール・サントラル諸芸学科卒、13年パリ大学理学部卒。帰国後内務省土木局に入り19年工科大学教授兼学長、23年土木局長、27年土木技監、31年通信次官、36年鉄道作業局長、明治39年帝国学士院会員、大正6年理化学研究所長、13年枢密顧問官。工学会理事長、世界各国より勲賞多数をうけたほか ASCE, ICE 名誉会員等。

2. おきの・ただお (1854～1921) 工博 獲一等 大学南校から古市らとともにエコール・サントラル諸芸科卒。帰国後東京職工学校雇をへて内務省へ入り30年土木監督署技監、大阪築港工事長、38年大阪土木出張所長兼土木局工務課長、44年内務技監、大正7年退官。各種の調査会委員を歴任。治水、港湾事業に35年間にわたり尽力、特に大阪築港、大阪水道、淀川治水工事等に功績が大きい。

3. のむら・りゅうたろう (1854～1943) 工博 名誉会員 獲二等 明治14年帝大土木卒、東京府をへて19年鉄道局へ移り技師、27年福島出張所長、29年欧米出張後31年通信技監、42年鉄道院技監、大正2年副総裁兼運輸局長に就任、同年満鉄総裁となり3年辞任、8年再任され10年に辞任。のち東京地下鉄道、湘南電気鉄道、南武鉄道の社長を歴任。帝国鉄道協会会长、朝鮮鉄道協会名誉会員、鉄道会議議員、工政会会員。

4. いしごろ・いそじ (1855～1922) 工博 獲二等 明治11年帝大土木卒、神奈川県へ入り12年退職、第1回文部省留学生として英國に留学、英、仏、エジプトで実務に従事し16年帰朝後内務省入省。帝大講師を兼任(衛生工学)。30年土木監督署技監から海軍技監に転任し39年退官、40年貴族院議員、宇治川電気技師長、三池築港顧問等を歴任、直轄河川工事、軍港整備、水力電気等に功績が大きい。

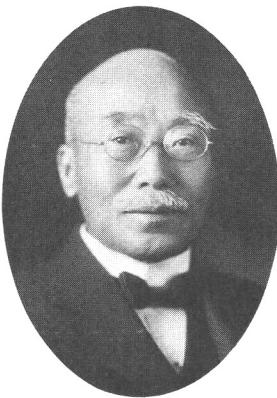
5. しらいし・なおじ (1857～1919) 工博 獲四等 明治14年帝大土木卒、農商務省、東京府をへて16年文部省留学生として米国へ留学、大学、鉄道会社、橋梁会社等で実務を経験さらに欧州へ行きベルリン工大等で学び20年帰朝、帝大教授となるが23年退官、民間に転じ関西鉄道、猪苗代水力電気、若松築港等に社長もしくは役員として関与、高知県より衆議院議員に3回当選、ASCE, ICE会員、土木学会長就任後3か月で死亡。

6. ひろい・いさみ (1862～1928) 工博 獲二等 明治14年札幌農学校卒、開拓使勤務をへて工部省へ転じたが渡米のため退職、20年札幌農学校助教授に任せられ米、独へ留学。22年札幌農学校教授となり、26年北海道庁技師、小樽築港事務所長兼任。30年東大教授兼道庁技師。大正8年退官(名誉教授)。港湾、河川、鉄道、水力発電、橋梁設計などに功績が大きい。多数の論文著書があるが、特にPlate Girder Construction(1888年)、日本築港史(昭和2年)は名著のはまれが高い。

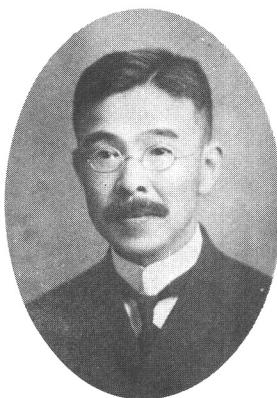
7. せんごく・みつぐ (1857～1931) 工博 獲一等 明治11年帝大土木卒、東京府をへて東北鉄道の創立に参画、17年工部省鉄道局勤務、日本鉄道、甲武鉄道工事を担当、27年鉄道局運輸課長、29年通信省鉄道技監を最後に退官。筑豊鉄道、九州鉄道の社長、39年満鉄設立委員、41年衆議院議員(3回)。44年猪苗代水力社長、大正3年鉄道院総裁、13年鉄道大臣、15年貴族院議員、昭和4年満鉄総裁に就任。帝国鉄道協会名誉会長。

8. はらた・ていすけ (1865～1937) 工博 獲二等 明治16年帝大理学部に入り19年退学しドイツに留学、24年シャロッテンブルグ高等工芸学校卒、25年内務省土木監督署技師、明治31年第4区土木監督署長、38年名古屋土木出張所長、大正7年下関土木出張所長をへて内務技監となり13年退官。この間何回か中国へ出張し漢口の護岸工事等を指導。港湾調査会委員、臨時治水調査会委員、帝都復興院参与等のほか各地の工事顧問を多数歴任。

9. ふるかわ・さかじろう (1858～1941) 工博 名誉会員 獲一等 明治17年工部大学校土木卒。工部省に入り27年鉄道技師兼陸軍省御用係、29年笹子隧道工事に尽力。36～37年欧米出張後鉄道隊技長として日露戦争に従軍。大正2年鉄道院技監兼技術部長をへて副総裁となり6年退官。のち九州鉄道、金剛山電気鉄道の役員、鉄道会議議員、帝国鉄道協会会长はじめ各種委員会委員長を多数歴任。ロシアおよびスペイン皇帝より勲賞をうける。



第10代（大正12～13）
故 工学博士 中原貞三郎



第11代（大正13～14）
故 工学博士 中山秀三郎



第12代（大正14）
故 工学博士 中島銳治



第13代（大正14～15）
故 工学博士 日下部辨二郎



第14代（大正15～昭和2）
故 工学博士 吉村長策



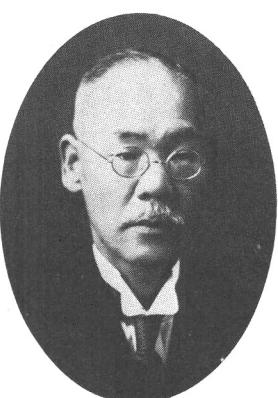
第15代（昭和2～3）
故 工学博士 市瀬恭次郎



第16代（昭和3～4）
故 工学博士 岡野昇



第17代（昭和4～5）
故 工学博士 田辺朔郎



第18代（昭和5～6）
故 工学博士 中川吉造

(第10代～第18代)

10. なかはら・ていさぶろう (1859～1927) 工博 獻三等 明治15年帝大土木卒, 陸軍省陸地測量部に入り19年陸軍5等技師, 21年帝大講師を併任, 戰前の陸測地図の基礎を固める。のち熊本県技師をへて31年内務省第7区土木監督署長, 39年総監府技師として道路整備に朝鮮各地で活躍, 44年大阪土木出張所長, 大正2年欧米出張後東京土木出張所に転じ利根川, 渡良瀬川, 荒川改修工事に尽力し大正13年退官。

11. なかやま・ひできぶろう (1864～1936) 工博 獻二等 明治21年帝大土木卒, 関西鉄道会社をへて23年帝大助教授, 29年河海工学研究のため欧米へ留学し31年教授。この間, 帝国経済会議, 学術研究会議, 土木会議等会員を歴任, 内務技師, 通信技師等を兼務し港湾, 発電水力, 河川, 砂防植林等に貢献し, 大正15年退官(名誉教授)。昭和9年帝国学士院会員, 土木学会の創立に深くかかわったほか土木用語調査委員会委員長としての功績が大きい。

12. なかじま・えいじ (1858～1925) 工博 獻二等 明治16年帝大土木卒, 助教授となり20年より23年まで欧米へ留学, 東京市下水道創設のため帰国, 32年完成まで尽力, 29年バルトンの後任として帝大教授となり, 内務技師, 東京市技師長等を併任, 大正10年退官(名誉教授)。14年土木学会会長に推されるが1か月後に死亡。わが国近代上下水道の開祖として技術者育成, 数十に及ぶ都市の水道に関与, 韓国勲二等, 米国水道協会名誉会員

13. くさかべ・べんじろう (1861～1934) 工博 獻二等 明治13年帝大土木卒, 内務省に入り24年広島(第5区), 熊本(第7区)土木監督署をへて32年東京土木監督署長となる。北上川, 淀川, 吉野川, 利根川改修, 浦戸港, 高松港, 宇野築港等に関与, 明治38年東京土木出張所長となり39年退官, 東京市技師長兼土木局長を兼務し大正3年退官。工学院院長, 東京市区改正臨時委員, 鉛害調査委員等を歴任。

14. よしむら・ちょうさく (1860～1928) 工博 獻二等 明治18年工部大学校土木卒, 母校の助教授をへて長崎, 大阪, 広島, 神戸, 岡山各市の水道計画に参画, 特に長崎の土堰堤, 神戸の石造堰堤はわが国貯水池堰堤の先駆をなした。32年海軍技師に任官, 佐世保鎮守府建築科長, 44年臨時海軍建築部工務監, 大正9年海軍建築本部長, 12年退官, 門司, 小倉, 福岡, 佐世保, 長野等各市の水道拡張工事の顧問として水道界に功績が大きい。

15. いちのせ・きょうじろう (1867～1928) 工博 獻二等 明治23年帝大土木卒, 内務省へ入り26年土木監督署技師, 38年内務技師, 39～40年欧米に出張, 土木局調査課, 大正2年仙台土木出張所長, 8年神戸土木出張所長, 13年内務技監, 昭和3年死亡・退官。児島湾理築工事, 神戸港拡張工事, 北上川改修工事等に功績多し。港湾調査会委員, 道路会議議員等の委員を歴任。

16. おかの・のばる (1876～1949) 工博 名誉会員 獻三等 明治32年帝大土木卒, 日本鉄道へ入り38年欧米諸国へ出張, 帰国後は同社解散のため39年鉄道作業局に転じ43～44年欧米主としてベルリンに学び帰朝, 大正8年鉄道省工務局長, 13年鉄道次官となり退官。14年西武鉄道副社長, 15年社長に就任, 秩父鉄道, 理研工作機械等各社の役員を兼務, 鉄道会議議員, 大阪市顧問, 信号会会长等を歴任。

17. たなべ・さくろう (1861～1940) 工博 名誉会員 獻一等 明治16年工部大学校土木卒, 京都府に奉職し琵琶湖疏水の設計施工の最高責任者となり同工事を明治23年に完成(当時28歳)。工科大学教授, 北海道鉄道敷設部をへて33年京都帝大教授, 大正5年京都帝国大学工科大学学長。12年退官(名誉教授)。疏水工事のほか全国各地の運河, 水力発電, 北海道の鉄道事業等に功績, 明治工業史, 明治以前日本土木史編集委員長のほか論文, 著書多数。明治27年, ICEよりテルフォード賞をうける(号:石斎)。

18. なかがわ・よしお (1871～1942) 工博 獻二等 明治27年帝大土木卒, 内務省第一土木監督署に入り31年関宿工営所主任として利根川治水工事に関与し退官まで尽力。38年内務省技師, 43～44年欧米へ出張, 大正8年東京第二土木出張所長, 12年東京土木出張所長, 昭和3年内務技監, 9年退官。大堰堤国際委員会日本国内委員会委員長, 朝鮮総督府治水調査委員会委員等のほか港湾協会, 河川協会, 道路改良会等の副会長等を歴任, 土木学会用語調査委員長ほか委員歴多数。



第19代（昭和6～7）
故 工学博士 那波光雄



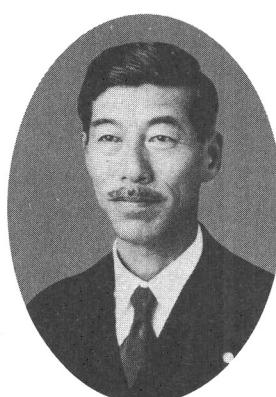
第20代（昭和7～8）
故 工学博士 名井九介



第21代（昭和8～9）
故 工学博士 真田秀吉



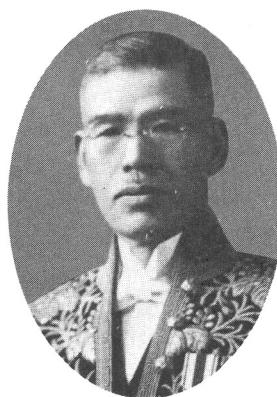
第22代（昭和9～10）
故 工学博士 久保田敬一



第23代（昭和10～11）
故 工学士 青山士



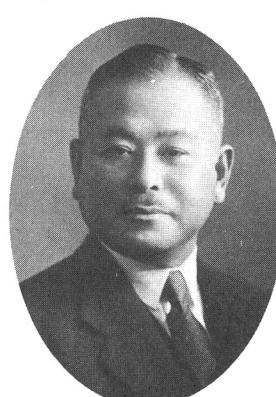
第24代（昭和11～12）
故 工学士 井上秀二



第25代（昭和12～13）
故 工学博士 大河戸宗治



第26代（昭和13～14）
故 工学士 辰馬鎌藏



第27代（昭和14～15）
故 工学士 八田嘉明

19. なは・みつお (1869～1960) 工博 名誉会員 獲三等 明治26年帝大土木卒、関西鉄道に入り31年建設課長、32年京大助教授へ転じ33～35年ベルリン工大に留学、帰朝後教授となり鉄道工学を担当、39年大学を辞し九州鉄道へ転じ、のち鉄道院の中津、大分事務所長をへて大正4年工務局設計課長、6年東大教授を兼任、8年官房総裁研究所長、15年退官。昭和11年まで東大講師、交通文化賞受賞、第二代土木学会誌編集委員長ほか委員歴多数。
20. めいい・きゅうすけ (1869～1944) 工博 名誉会員 獲三等 明治25年帝大土木卒、内務省に入り27年土木監督署技師、38年内務技師、41年欧米各国へ出張、帰国後名古屋、東京両土木出張所に勤務、大正7年北海道庁技師、9年石狩治水所長をへて昭和2年退官。4年東京高等工学校(現芝浦工大)校長、11年名誉校長、17年校長再任、雨竜電力顧問、土木学会主事ほか委員歴多数。
21. さなだ・ひできち (1873～1960) 工博 名誉会員 獲二等 明治31年東大土木卒、内務省に入り淀川改修工事に従事、44年東京土木出張所に転じ利根川改修第三期工事を担当、大正3年欧米出張をへて大正13年大阪土木出張所長、昭和3年東京土木出張所長、9年退官、利根川治水協会、河川協会、港湾協会等の委員、顧問等多数、「明治以前日本土木史」、「本邦土木と外人」「内務省直轄土木工事略史・沖野博士伝」等の編さんに関与したほか著書「日本水制工論」(昭和7年)がある。
22. くばた・けいいち (1881～1976) 工博 名誉会員 男爵 獲一等 明治38年東大土木卒、米国へ3年間留学後41年鉄道院に入る。東京建設事務所長、建設局工事課長、名古屋、東京両鉄道局長、鉄道省運輸局長をへて昭和6年鉄道次官、9年退官、13年貴族院議員、18年日本通運社長、21年退社、各種団体の役員、会長等を歴任、都市対抗野球の創設に尽力、相模、厚木国際などゴルフ俱楽部理事長および会長、交通文化賞受賞。
23. あおやま・あきら (1880～1963) 名誉会員 獲三等 明治36年東大土木卒、渡米してニューヨークの鉄道会社で測量に従事、37年から45年までパナマ運河の測量設計に7年半携わり43年帰国、内務技師となり荒川放水路工事、信濃川大河津分水路工事を完成させ昭和11年内務技監を退官。のち東京市、兵庫県、満州国等の嘱託として行政、治水事業などを指導した。
24. いのうえ・ひでじ (1875～1943) 明治33年京大土木卒(第1回)、母校の助教授をへて35年京都市土木課長、40～41年水道事業視察のため欧米各国およびエジプトへ出張、帰朝後京都市臨時事業部技術長兼水道課長、大正8年猪苗代水力電気会社土木課長、12年東京電燈会社理事建設部長を歴任。水道研究会理事長、水道協会理事、函館水道、富山電気、名古屋市顧問等をつとめる。著書に「鉄筋コンクリート」(明39・丸善)あり。
25. おおこうと・そうじ (1877～1960) 工博 明治35年東大土木卒、鉄道に入り40年より2年間欧米留学、大正8年東京改良事務所長として現在の通勤交通網の基本を整備、昭和4年鉄道省工務局長をつとめ6年退官。7年から13年まで東大教授のかたわら攻玉社理事として各種の校長を歴任。25年以降短大教授。この間多くの委員会委員を兼務。2期にわたり土木学会コンクリート調査委員会委員長として示方書制定に尽力、大正14年土木学会賞受賞。
26. たつま・けんぞう (1882～1959) 名誉会長 獲二等 明治40年京大土木卒。内務省に入り淀川、遠賀川、利根川、多摩川等の改修工事に従事、昭和3年名古屋、9年東京の両土木出張所長をへて11年内務技監となり14年退官。退官後は土木会議、国土審議会、河川審議会の議員等のほか広島工業港、東京都水道、鳥取市、兵庫県等の顧問として指導にあたったほか昭和26年共栄興業会社を創立して社長として実業界で活躍。
27. はった・よしあき (1879～1964) 名誉会員 獲一等 明治36年東大土木卒、鉄道に入り大正10年建設局線路調査課長、12年鉄道省建設局長、15年鉄道次官、昭和4年退官。貴族院議員となり7年満鉄副総裁、12年東北興業総裁。政界では13年拓務大臣、14年商工兼拓務大臣、東京商工会議所会頭、16年鉄道大臣、18年運輸通信大臣を歴任。戦後は拓大総長、日本科学振興財團会長等のほか広く実業界で活躍。



第28代（昭和15～16）
故工学士 中村謙一



第29代（昭和16～17）
故工学士 谷口三郎



第30代（昭和17～18）
故工学博士 草間 健



第31代（昭和18～19）
故工学博士 黒河内四郎



第32代（昭和19～20）
工学博士 鈴木雅次



第33代（昭和20～21）
故工学博士 田中 豊



第34代（昭和21～22）
故工学士 鹿島精一



第35代（昭和22～23）
工学博士 岡田信次



第36代（昭和23～24）
故工学士 岩沢忠恭

28. なかむら・けんいち (1881～1943) 獲三等 男爵 明治38年東大土木卒, 鉄道作業局に入り41年鉄道院技師, 大正2年～4年欧米留学, 鉄道省新庄, 秋田両事務所長をへて12年建設局線路調査課長, 13年建設局計画課長, 15年鉄道省建設局長, 昭和4年貴族院議員となり, 鉄道会議議員, 鉄道工事統制協会会长, 災害予防調査会委員, 発電調査会委員等を歴任. 著書に「近世橋梁学, 上中巻」(工業雑誌社, 明43, 大2)あり.

29. たにぐち・さぶろう (1885～1957) 名誉会員 獲二等 明治42年東大土木卒, 北海道庁に入り大正4年内務技師, 7年大阪土木出張所で淀川改修を担当. 昭和4年内務省土木局第一技術課長, 東京土木出張所長をへて14年内務技監, 17年退官. のち外地治水工事を指導し23年帰国. 日本建設機械化協会初代会長のほか各府県の顧問, 建設省専門委員等を歴任. 日中親善に功績が大きい.

30. くさま・いさむ (1881～1972) 工博 名誉会員 獲二等 明治39年東大土木卒, 九州鉄道をへて42年東大助教授, 大正7年から欧米へ2年間留学, 中島銳治教授の後任として大正10年教授, 17年退官(名誉教授). 早大教授, 高岡市, 前橋市, 名古屋市, 満鉄, 福井市等の上下水道顧問等を歴任. 日本水道協会功労賞, 保健文化賞, 大正15年度土木学会賞, 昭和42年度功績賞受賞.

31. くろこうち・しろう (1882～1960) 工博 名誉会員 獲三等 明治40年東大土木卒, 鉄道に入り大正10年信濃川電気軌道事務所長, 建設局長, 工務局長等を歴任し昭和9年退官. 東京地下鉄道技師長として現銀座線の全通に尽力, 京浜鉄道, 湘南電気鉄道等の取締役, 顧問等として技術指導にあたった. 日本保線協会会长, 芝浦工大教授, 各種団体の役員, 土木学会誌編集委員長ほか委員歴多数.

32. すずき・まさつぐ (1889～) 工博 名誉会員 獲一等 大正3年九大土木卒, 内務省へ入り東京, 横浜土木出張所等をへて昭和5年日大教授兼任, 9年土木局第二技術課長, 14年東京土木出張所長, 17年内務技監, 20年退官. 戦後は日大教授に専任のかたわら政府の各種審議会委員, 会長, 学会の委員等を歴任, 日大名誉教授. 河川, 港湾, 水力発電, 上下水道等に業績. 交通文化賞, 藍綬褒賞等のほか43年土木界初の文化勲賞を受賞. 論文, 著書, 隨筆等多数.

33. たなか・ゆたか (1888～1964) 工博 名誉会員 獲二等 大正2年東大土木卒, 鉄道院へ入り欧米留学ののち, 12年復興院橋梁設計課長, 14年東大教授を兼任, 昭和9年東大教授専任となり23年退官(名誉教授). 横河橋梁製作所相談役として各地の橋梁設計を指導. 日本学術会議会員, 日本学士院会員, 溶接学会会長, 土木学会本四連絡橋技術調査委員会委員長等を歴任. 昭和4年度土木学会賞, 紫綬褒賞受賞. 没後その功績を記念し「土木学会田中賞」が設立される.

34. かしま・せいいち (1875～1947) 明治32年東大土木卒, 鉄道作業局に勤務後鹿島組・鹿島岩蔵組長の養嗣子となり, 45年組長に就任, 昭和5年株式会社に改組後, 社長となり13年会長となる. この間, 東京商工会議所議員, 東京土木建築業組合会長, 土木工業協会理事長等を歴任し, 21年貴族院議員. 国内主要工事, 海外工事を数多く施工し民間請負企業の地位向上に功績が大きい. 請負業者からの土木学会会長は最初, 昭和18年度緑綬褒賞受賞.

35. おかだ・しんじ (1898～) 工博 名誉会員 獲三等 大正12年京大土木卒, 鉄道省に奉職し昭和7年欧米各国へ留学, 昭和20年鉄道防衛事務局長, 運輸省鉄道総局長, 25年参議院議員となり東京高速道路公社取締役, 東京交通興業会社社長を歴任, 29年運輸政務次官. 31年日本自動車会議所理事, 37年攻玉社短大学長, 38年国際技術協力開発会社社長. 46年度土木学会功績賞受賞.

36. いわさわ・ただやす (1891～1965) 工博 名誉会員 獲二等 大正7年京大土木卒, 内務省に入り17年国土局道路課長, 20年関東土木出張所長をへて内務技監兼国土局長, 23年建設次官兼建設技監. 24年建設事務次官, 25年退官. 同年参議院議員(全国区2期, 広島地方区1期). 日本測量協会会长, 日本道路协会会长, 全国測量業協会会长等を歴任. 昭和40年第13回国際道路会議(東京)日本実行委員会委員長.



第37代（昭和24～25）
故工学博士 吉田徳次郎



第38代（昭和25～26）
故工学士 三浦義男



第39代（昭和26～27）
故工学博士 大西英一



第40代（昭和27～28）
故工学士 稲浦鹿藏



第41代（昭和28～29）
故工学博士 平井喜久松



第42代（昭和29～30）
工学博士 青木楠男



第43代（昭和30～31）
故工学士 菊池明



第44代（昭和31～32）
故工学士 平山復二郎



第45代（昭和32～33）
故工学博士 内海清温

37. よしだ・とくじろう (1888～1960) 工博 名誉会員 獲一等 明治45年東大土木卒, 九大教授をへて24年退官。この間イリノイ大へ2年間留学。わが国コンクリート界の第一人者として教育, 研究にはげんだほか現場の施工指導に果たした役割も大きい。特にコンクリート委員会の委員長として25年間示方書制定に尽力, さらにPCの普及にも貢献。九大名誉教授, 日本学士院会員, 藍綬褒賞, 昭和15年度土木学会賞受賞, 没後その功績を記念して「土木学会吉田賞」が設立される。

38. みうら・よしお (1895～1965) 名誉会員 獲二等 大正9年東大土木卒, 鉄道省に入り新潟鉄道局工務部長, 工務局改良・計画各課長, 戦時中は運輸通信省工務局長, 施設局長を歴任し20年退官。内閣技監戦災復興院勤務, 特別調達室監事, 復興建設技術協会副会長, 交通協力会会長等をへて28年参議院議員に当選, 34年宮城県知事に当選して東北振興に尽力したが現職のまま死亡(宮城県県民葬)。

39. おおにし・えいいち (1889～1955) 工博 獲四等 明治45年名古屋高工(現名工大)土木卒, 鉄道院に入るが電力界へ転じ, 大正3年神通電力会社へ入社, 神通川建設所長としてこれを完成, 7年矢作水力会社へ移り中部地区的電源開発に従事, 15年取締役となるが17年設立間近い日本発送電会社へ入社20年理事, 22年総裁に就任, 25年退任し26年電力技術研究所初代理事長, 日大教授, 28年電力中央研究所理事長代理の現職で死亡。藍綬褒賞受賞。

40. いなうら・しかぞう (1894～1978) 名誉会員 獲二等 大正13年京大土木卒, 内務省神戸土木出張所に入り昭和10年大阪府土木部河港課長, 17年青島埠頭常務取締役, 21年兵庫県土木部長, 24年建設技監, 27年建設事務次官をへて30年退官。31年より43年まで参議院議員, 建設常任委員長等を歴任。河川協会, 海岸協会, 港湾協会等の副会長, 会長等。日本道路協会名誉会員, 47年度土木学会功績賞受賞。

41. ひらい・きくまつ (1885～1971) 工博 名誉会員 獲三等 明治43年東大土木卒, 鉄道院に入り大正4年から2年間米国へ留学, 昭和2年工務局改良課長, 9年工務局長となり14年退官。華北交通理事, 満鉄副総裁となる。戦後は鉄道建設興業(現鉄建建設), 興和コンクリート, 日本構造橋梁研究所等の社長, 鉄道施設協会会长, 日本交通協会副会長等を歴任。35年度交通文化賞受賞。

42. あおき・くすお (1893～) 工博 名誉会員 獲二等 大正7年東大土木卒, 内務省土木局に入り欧米出張をへて昭和5年東大講師を併任, 17年内務省土木試験所長, 21年退官し早大教授に就任, 29年早大第一理工学部長, 40年国士館大学教授, 同年早大名誉教授。文化財保護委員会委員, 溶接学会, 道路協会名誉会員, 41年日本学士院会員, 35年藍綬褒賞, 42年度土木学会功績賞受賞。日本土木史研究, 本四連絡調査など委員長歴多数。

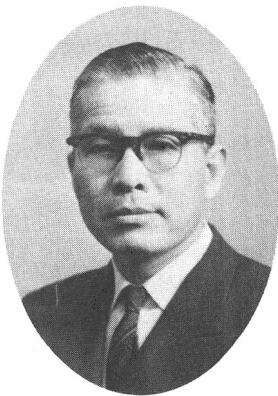
43. きくち・あきら (1899～1973) 名誉会員 獲二等 大正14年東大土木卒, 内務省に入り土木局, 下関土木出張所, 国土局, 興亜院等をへて20年国土局土木課長, 近畿土木出張所長をへて23年道路局長, 27年建設技監, 31年退官。日本道路公団理事となり35年辞職。地崎組副社長, 地崎道路会長, 橋梁コンサルタント社長等を歴任。日本道路協会会长, 道路緑化協会会长, 第13回国際道路会議議長等をつとめる。

44. ひらやま・ふくじろう (1888～1959) 名誉会員 獲三等 明治45年東大土木卒, 鉄道院に入り欧米各国へ留学後, 大正13年復興局道路課長, 工務課長を兼務。昭和6年鉄道省熱海建設事務所長, 仙鉄局長へて12年建設局長をつとめ退官。満鉄理事, 満州電業理事長, 滿州土木学会会長等を歴任。戦後はPSコンクリート, パシフィックコンサルタント社長, 日本技術士会会长等をつとめる。昭和28年交通文化賞受賞。著書「トンネル」(岩波)ほか。

45. うつみ・きよはる (1890～1984) 工博 名誉会員 獲二等 大正4年東大土木卒, 内務省から電力界に転じ電気化学工業, 黒部川電力等をへて昭和12年富士川電力土木部長, 日本軽金属取締役, 日発理事等を歴任。戦後は建設技術研究所理事長, 攻玉社短大学長等をへて31年から33年まで電源開発総裁となる。この間各種審議会, 委員会等を多数兼任。17年度土木学会賞, 30年度藍綬褒賞, 41年度土木学会功績賞受賞。



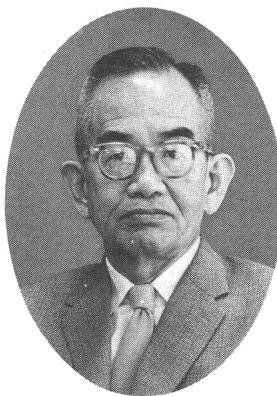
第46代（昭和33～34）
故 工学博士 米田 正文



第47代（昭和34～35）
工学博士 田中茂美



第48代（昭和35～36）
故 工学博士 沼田政矩



第49代（昭和36～37）
故 工学博士 永田 年



第50代（昭和37～38）
工学博士 藤井松太郎



第51代（昭和38～39）
工学士 山本三郎



第52代（昭和39～40）
故 工学博士 福田武雄



第53代（昭和40～41）
故 工学博士 岡部三郎

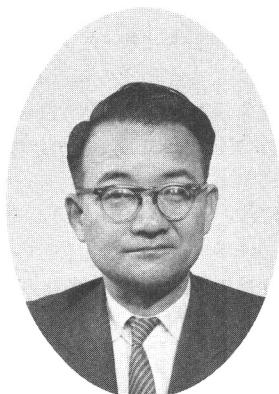


第54代（昭和41～42）
工学博士 篠原武司

46. よねだ・まさふみ (1904～1984) 工博 名誉会員 獲一等 昭和3年九大土木卒、内務省に入り満州国国道局技正、奉天省交通庁長をへて23年建設院水政局治水課長、25年近畿地建局長、27年河川局長、31年建設技監、33年建設事務次官、34年参議院議員、38年運輸常任委員長、42年大蔵政務次官。この間、河川、道路、国土総合開発等審議会委員、全国治水同盟会連合会会长等を歴任。49年度土木学会功績賞受賞。
47. たなか・しげみ (1903～) 工博 名誉会員 大正15年九大土木卒。鉄道省に入り昭和18年門鉄施設部長、20年鉄道総局施設局計画課長、23年施設局長、24年国鉄理事施設局長をへて理事・初代技師長、27年退職。同年極東鋼弦コンクリート振興、30年興和化成、33年興和コンクリート各社の社長を歴任。41年プレストレストコンクリート工業協会会长、46年度交通文化賞、47年度土木学会功績賞受賞。
48. ぬまた・まさのり (1895～1979) 工博 名誉会員 獲二等 大正8年東大土木卒、鉄道院総裁官房研究所に入り神戸改良事務所をへて昭和3年米独へ出張。8年大臣官房研究所第四科長、17年鉄道技術研究所第二部長兼東大教授、20年鉄道技術研究所長となり同年退職、東大教授専任となり30年退官、31年早大教授、40年国士館大学教授、その間、文化財審議会専門委員等、学会を含め多くの委員会に関与、39年度交通文化賞、42年度土木学会功績賞受賞。
49. ながた・すすむ (1897～1981) 工博 名誉会員 獲二等 大正11年東大土木卒。台湾総督府、内務省をへて電力界へ転じ東北振興電力から17年日本発送電へ。四国、北陸支店、北海道支店をへて26年北海道電力副社長、27年電発理事、28年佐久間建設所長事務取扱を兼務し佐久間ダムを仕上げ32年土木部長、35年電発顧問をへて東京電力技術最高顧問。国際大ダム会議副総裁、日本大ダム会議会長、日本A.C.I.会長、31年藍綬褒賞、32年電気学会電力賞、37年度土木学会賞、44年度土木学会功績賞受賞。
50. ふじい・まつたろう (1903～) 工博 名誉会員 獲一等 昭和4年東大土木卒、鉄道省に入り22年運輸省鉄道総局施設局線路課長、24年国鉄信濃川工事事務所長、27年技師長兼建設部長、30年常務理事、33年日本交通技術社長、38年理事・国鉄技師長、44年再び日本交通技術社長となり48年国鉄総裁、50年退任。土質工学会会長、日本鉄道施設協会会长等を歴任。昭和33年度土木学会賞、48年度土木学会功績賞受賞。
51. やまもと・さぶろう (1909～) 名誉会員 昭和8年東大土木卒、内務省東京土木出張所で利根川等の工事に従事。20年内務技師、25年建設省利水課長、27年治水課長、31年河川局長、35年建設技監、36年建設事務次官を最後に退官。38年三井不動産兼三井港湾開発社長をへて49年水資源開発公団総裁、57年退職。58年日本ダム技術センター理事長、59年退職。各種の審議会委員、日本河川協会会长等を歴任。52年度土木学会功績賞受賞。
52. ふくだ・たけお (1902～1981) 工博 名誉会員 獲二等 大正14年東大土木卒、内務省復興局をへて大正15年東大助教授、昭和2年欧米各国へ出張。昭和17年教授となり第二工学部の創設に尽力。26年東大生研、33年同所長、36年名大教授併任、38年退官(名誉教授)、構造計画コンサルタント社長と千葉工大教授を兼務。50年千葉工大学長。学術会議会員、日本工学会会長、国語審議会専門委員、学会の各種委員長を多数歴任。昭和8年度土木学会賞、48年度土木学会功績賞受賞。
53. おかげ・さぶろう (1892～1978) 工博 名誉会員 獲二等 大正5年東大土木卒、内務省に入り新潟、横浜土木出張所、土木研究所等をへて昭和2年東京市橋梁課長、4年退官。尼崎築港、14年から東亜建設工業に移り21年から49年まで取締役社長をつとめる。この間、東大講師(15～29年)、関係協会、日建連、経団連等の役員、運輸省、東京都、横浜市、神戸市等の港湾審議会委員等を歴任。34年藍綬褒賞、44年度土木学会功績賞受賞。
54. しのはら・たけし (1906～) 工博 名誉会員 昭和5年東大土木卒、鉄道省に入り24年国鉄広島鉄道管理局施設部長、施設局停車場課長、四国鉄道管理局長、門司鉄道管理局長をへて32年鉄道技術研究所長、36年退官。八幡製鉄参与をへて39年日本鉄道建設公団副総裁、45年総裁、54年退任。日本トンネル技術協会会长、39年および47年に銀盃授与。50年度土木学会功績賞受賞。



第55代（昭和42～43）
工学士 富樫凱一



第56代（昭和43～44）
故工学博士 石原藤次郎



第57代（昭和44～45）
工学士 柳沢米吉



第58代（昭和45～46）
工学博士 大石重成



第59代（昭和46～47）
故工学士 高野務



第60代（昭和47～48）
工学博士 岡本舜三



第61代（昭和48～49）
故工学士 飯田房太郎



第62代（昭和49～50）
工学博士 滉山養



第63代（昭和50～51）
工学士 尾之内由紀夫

55. とがし・がいいち (1905～) 名誉会員 獲一等 昭和 4 年北大土木卒, 内務省に入り 20 年閑門国道建設事務所長, 23 年建設省九州地建工務部長, 24 年道路局建設課長, 27 年道路局長, 29 年東大講師を兼任, 33 年建設技監, 35 年退官, 三菱地所顧問をへて 37 年日本道路公団副総裁, いったん退官し菱和不動産社長をへて 41 年より 45 年まで日本道路公団総裁, 45 年本州四国連絡橋公団総裁となり 51 年退官. 48 年度土木学会功績賞受賞.

56. いしはら・とうじろう (1908～1979) 工博 名誉会員 獲二等 昭和 5 年京大土木卒, 講師, 助教授をへて昭和 18 年教授となり河海工学講座を担任, 48 年定年退官 (名誉教授). この間, 工学部長, 防災研究所長, 大型計算機センター長等を歴任, 日本学術会議第五部会員を 6 期 18 年つとめ第五部長となる. 各種委員会や審議会委員を多数歴任, 京大はじめ土木関連学科の増設, 土木学会関西支部の発展に貢献, 48 年度土木学会功績賞受賞.

57. やなぎさわ・よねきち (1903～) 名誉会員 獲二等 昭和 2 年東大土木卒, 内務省に入り昭和 18 年運輸通信省港湾建設課長, 21 年港湾局計画課長, 23 年中国海運局長兼広島海上保安本部長, 26 年海上保安庁長官をへて 30 年退官, 同年アジア航測会社社長, 40 年三井共同コンサルタント会社社長, この間, 国際建設技術協会理事長, 国際港湾協会理事, 日本港湾協会副会長, 日中土木技術交流協会理事長等を歴任, 50 年度土木学会功績賞受賞.

58. おおいし・しげなり (1906～) 工博 名誉会員 昭和 5 年東大土木卒. 鉄道省建設局計画課, 27 年国鉄東鉄管理局長, 29 年建設部長, 32 年北海道支社長, 幹線調査室長, 33 年常務理事, 35 年新幹線総局長となり 38 年国鉄を退職, 39 年鉄道建設興業 (のちの鉄建建設) 副社長をへて 42 年代表取締役社長に就任. 日本鉄道建設業協会会长はじめ各種団体の役員を兼務, 36 年度土木学会賞, 56 年度土木学会功績賞受賞.

59. たかの・つとむ (1909～1981) 名誉会員 獲二等 昭和 9 年東大土木卒, 内務省に入り富山県, 新潟県勤務をへて 15 年内務技師, 18 年防空総本部技師を兼任, 24 年京浜工事事務所長, 27 年道路局国道課長, 31 年企画課長, 33 年技術参事官, 34 年中部地建局長, 35 年道路局長, 建設技監をへて 37 年退官, 三菱地所顧問, この間東大, 早大講師, 日本道路協会会长 (名誉会員) 等, 多数の委員会, 審議会等に関与, 昭和 55 年度土木学会功績賞受賞.

60. おかもと・しゅんぞう (1909～) 工博 名誉会員 昭和 7 年東大土木卒, 大分県, 愛媛県技師をへて昭和 17 年東大助教授, 22 年教授, 39～42 年生産技術研究所長 (併任). 45 年名誉教授, 同年埼玉大学教授, 48 年工学部長, 49 年退官, 埼玉大学学長に選任され 55 年退任 (名誉教授), 昭和 24 年度土木学会賞, 53 年度土木学会功績賞, 54 年紫綬褒賞受賞. 57 年「土木耐震工学の研究」で土木関係で始めて藤原科学財団より藤原賞を受ける.

61. いいだ・ふさたろう (1906～1975) 獲二等 昭和 5 年東大土木卒, 間組に入社, 24 年取締役, 常務および専務をへて 42 年副社長, 44 年社長に就任, この間国内の代表的土木工事とくにダムを多数完成させ, 東南アジアでも活躍, 土木技術の向上に貢献. 日本土木工業協会, 日本建設業団体, 経団連, 海建協等の理事, 日本建設機械化協会副会長等を歴任, 建設大臣表彰, 藍綬褒賞受賞, 鹿島精一氏に続き業界から二人目の土木学会会長に就任.

62. たきやま・まもる (1910～) 工博 名誉会員 獲二等 昭和 7 年東大土木卒, 鉄道省入省, 東京改良事務所, 新潟鉄道局, 建設局停車場課, 華北交通出向等をへて 20 年運輸省門鉄鳥栖管理部長, 27 年審議室調査役, 30 年広鉄管理局長, 審議室長をへて 35 年常務理事, 38 年退職, 鹿島建設常務をへて 42 年専務取締役. 退職して 48 年国鉄技師長, 54 年国鉄顧問, 55 年海外鉄道技術協力協会理事長, 38 年土木学会賞, 55 年度土木学会功績賞受賞

63. おのうち・ゆきお (1915～) 名誉会員 昭和 14 年東大土木卒. 内務省に入り東京土木出張所, 関東地建をへて 24 年から 29 年まで人事院に出向, 給与部階級課長, 給与部長となる. 29 年建設省へ戻り 33 年道路局企画課長, 38 年道路局長, 41 年建設技監, 42 年建設事務次官, 45 年日本道路公団副総裁, 51 年本州四国連絡橋公団総裁, 57 年退職. 三菱地所顧問, 日本道路協会会长, 日本トンネル技術協会会长, 58 年度土木学会功績賞受賞.



第64代（昭和51～52）
工学博士 最上 武雄



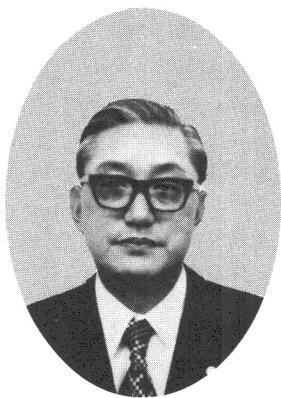
第65代（昭和52～53）
工学博士 水越達雄



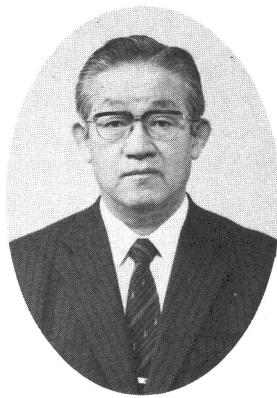
第66代（昭和53～54）
工学博士 仁杉 嶽



第67代（昭和54～55）
工学博士 國分正胤



第68代（昭和55～56）
工学士 高橋國一郎



第69代（昭和56～57）
工学博士 八十島義之助



第70代（昭和57～58）
工学博士 野瀬正儀



第71代（昭和58～59）
工学博士 高橋浩二



第72代（昭和59～60）
工学士 岡部 保

64. もがみ・たけお (1911～) 工博 名誉会員 勲二等 昭和9年東大土木卒, 10年東大講師, 11年助教授, 22年教授, 43年工学部長, 46年定年退官(名誉教授), 46年日大理工学部教授, 56年日大理工学部顧問, 日本学術会議会員, 土質工学会会長(名誉会員), 國際土質基礎工学会議副会長, 日本建設機械化協会会长(名誉会員), 昭和18年度土木学会賞, 58年度土木学会功績賞受賞, 土質工学会では42年論文賞, 44年功労賞受賞, 論文, 著書多数.
65. みずこし・たつお (1911～) 工博 名誉会員 昭和11年東大土木卒, 大日本電力入社, 戦時電力統合により日本発送電へ, さらに電力再編成に伴い26年東京電力に移る. 建設部長, 常務取締役をへて常盤共同火力社長兼東京電力最高顧問. この間, 東電土木陣の指導者として電力土木施設の建設・保守に関与し, とくに, 梓川, 高瀬川両水力再開発計画を指揮した功績は大きい. 土木学会関東支部長, 岩盤力学委員会委員長等のほか委員歴多数.
66. にすぎ・いわお (1915～) 工博 名誉会員 昭和13年東大土木卒, 鉄道省に入り技術研究所, 施設局土木課長, 管理課長をへて34年名古屋, 37年東京幹線の両局長として東海道新幹線工事を指揮し39年建設局長, 40年常務理事, 43年退任. 46年西武鉄道に入り専務取締役, 副社長. 54年退任して日本鉄道建設公団総裁, 58年国鉄総裁に就任. プレストレストコンクリート技術協会会长. 30年度土木学会賞受賞, 各種委員会委員長等を多数歴任.
67. こくぶ・まさたね (1913～) 工博 名誉会員 昭和11年東大土木卒, 東京府技手をへて18年東大助教授, コンクリートの吉田徳次郎教授のあとをうけて25年教授, 49年定年退官(名誉教授). 武藏工業大学教授となり59年退職. 日本学術会議会員, 日本工業標準調査会土木部会長, ACI名譽会員等を歴任. 昭和36年以来土木学会コンクリート委員会委員長を20年間つとめ示方書改訂に功績が大きい. 25年度土木学会賞, 56年度藍綬褒賞受賞.
68. たかはし・くにいちろう (1921～) 昭和19年東大土木卒, 内務省に入り各種の河川工事, 災害復旧工事に従事したのち25年五十里ダム出張所長, 31年関東地建四号国道工事事務所長, 33年東京国道工事事務所長, 35年道路局地方道課土木専門官, 39年高速道路課高速道路調査室長, 41年地方道課長, 国道第一課長をへて45年道路局長, 47年建設技監, 49年建設事務次官, 51年日本道路公団副総裁, 53年総裁に就任.
69. やそしま・よしのすけ (1919～) 工博 昭和16年東大土木卒, 17年東大講師, 兵役に従事したのち22年助教授, 30年教授, 55年定年退官(名誉教授). 埼玉大学教授となり56年より工学部長に就任. 日本学術会議第五部長および副会長, 国土, 運輸政策, 資源調査等多くの審議会委員, 委員長等を歴任, 51年度交通文化賞, 57年度土木学会田中賞受賞. 学会では会誌編集, 土木年鑑, 土木工学ハンドブック等の編集委員長, 関東支部長等委員歴多数.
70. のせ・まさのり (1911～) 工博 名誉会員 勲二等 昭和11年東大土木卒, 富士電力入社, 17年日本発送電, 26年関西電力へ引継入社, 土木部水力計画課長, 建設部次長をつとめ29年電源開発土木部次長となる. 34年関西電力へ移り黒四建設事務所長, 支配人, 常務, 専務取締役をへて50年電発副総裁となり58年退任. 日本大ダム会議会長, 國際大ダム会議副総裁等を歴任. 黒四発電所建設に関し37年度朝日賞を代表受賞, 48年度藍綬褒賞受賞.
71. たかはし・こうじ (1923～) 工博 昭和20年東大第二工学部土木卒, 運輸省鉄道官補として盛岡鉄道工事局へ配属され建設線調査, 青函トンネル調査などに従事, 30年建設部計画課補佐, 35年新幹線総局工事局補佐として東海道新幹線工事に参画, 43年門司鉄道管理局長, 47年建設局長, 50年常務理事, 54年技師長, 59年退任. 鉄建設顧問, 取締役をへて同社副社長に就任.
72. おかげ・たもつ (1922～) 昭和19年東大第二工学部土木卒. 運輸通信省入省. 兵役をへて港湾局計画課, 第二港建, 運輸技研勤務, 36年港湾局建設課長, 38年計画課長, 42年技術参事官, 45年経企庁総合開発局長, 47年運輸省港湾局長, 48年退官. 49年(社)日本港湾協会理事長, 49年(財)港湾運送近代化基金理事・会長, 50年全国漁業協会理事・会長, 53年(株)三陸振興取締役・会長等を歴任し59年より日本港湾協会会长に就任.